

地震避難訓練計画

一の宮小学校防災教育担当

1 目的

- 地震時に対処するために必要な知識や行動力、判断力を身につけさせる。
- 指示によって、または自主的判断によって、早く安全に避難できるようにする。

2 日時

平成28年10月12日(水) (10:00~10:20)

※小中合同 ※高学年は3校時、中学校体育館にて防災教育についての講話

3 想定

休み時間中に、強い地震(震度5弱)が発生。児童はそれぞれの場所で、自分の身を守る体勢をとる。揺れがおさまった後、放送の指示(今回は校舎に被害ありと想定し運動場へ)にしたがい、運動場中央部へ避難する。担任等は、人員が揃っているか、けががないか等を確認し、校長へ報告する。

4 指導計画

時刻	内容(担当)	注意事項
朝の会までに	事前指導(各担任)	・地震の際の心構え、避難の仕方について話を聞く。休み時間発生想定のため、 <u>それぞれの場所での身の守り方や避難経路</u> を十分に指導しておく。
10:01	① 地震発生通告 緊急地震速報システム(教頭) 「警報音。まもなく強い揺れの地震がきます。(曖昧モード)」 ② 近くにいる児童に指示 「頭を守って。物が倒れてこないところにしゃがんで。」 (担任等)	・出入り口は開けておき、避難経路を確保する。 ・主要動が去るまで、落下物による被害から身を守らせる。児童には、「おちてこない、たおれてこない、うごいてこない場所」で自分の身体を守ることを指導しておく。 ・カーテンを閉める。(ガラス飛散によるけがを防ぐ。) ・電源等の火災発生源になるようなものは全て消す。
10:02	③ 安全確認(担任外)	・担任外職員は、担当箇所の安全確認をし、校長に報告する。
10:05	④ 避難指示(放送)(主幹教諭) 「ただいま地震がおさまっています。児童のみなさんは運動場へ避難してください。」	・校長が避難の指示を出す。「校舎の〇〇に被害がでたので、運動場へ避難するように。」 ・拡声器が近くにあった場合、拡声器も持ち出す。
	⑤ 避難開始 運動場へ (雨天時は体育館へ行き、学年ごとに並ぶ。)	・担任等は、近くにいる児童を運動場へ誘導する。このとき、どこの経路を通らせるか判断し指示を出す。担任は児童とともに運動場へ行き、人員・けがの有無等の確認し、校長へ報告する。 ・担任外で自分の担当場所がある職員は、逃げ遅れた児童がいらないか確認に向かう。 ・校長が全学級の確認を終えた時点で、訓練終了となる。
10:10	⑥ 講評(学校安全アドバイザー)	・防災士の方から、今回の避難の様子や児童が気を付けること等を話していただく。
10:20	⑦ 終了	・低学年は教室へ、高学年は中学校体育館へ移動する。 (高学年は履き替えず、上靴のまま)

5 役割分担

本部	校長		・避難の統括
通報連絡	教頭、主幹教諭		・消防機関への通報と関係機関への通知 ・児童誘導の放送
避難誘導	各担任、他職員4名		・避難した児童の誘導管理
救護	養護教諭、職員2名、給食2名		・避難した児童の救護
初期消火	担任外職員4名		・火災があった際の、初期消火
搬出	教務、事務、図書司書、担任外1名		・状況に応じ、必要なものの持ち出し
教室等の最終確認	1 F北東側(倉庫前、階段～職員玄関)	教頭	1 危険個所の把握(トイレ含む) ↓ 2 校長へ報告 → 4 避難時における児童の確認(トイレ含む)
	1 F北西側(児童昇降口～給食室)	給食A	
	1 F南東側(生活科、2の3～1の1、中庭)	主幹	
	1 F南西側(たんぼぼ4組以外、中庭)	職員A	
	体育館	給食B	
	保健室	養護教諭	
	前庭(低学年前)	職員B	
	2 F北東側(階段、パソコン～理科室)	理科専科	
	2 F北西側(更衣室～体育館側階段)	職員C	
	2 F南西側(4の2～トイレ)	教務	
	2 F南東側(図書室～5の1)	図書司書	
職員玄関、児童昇降口(外壁等)	事務	3 避難時、けがのないよう声かけ (東階段) 職員2名 ← (中央階段) 職員2名 (西階段) 職員2名	

6 避難場所

基本的には屋内避難だが、今回は校舎に損壊があったこととするため、運動場中央へ避難する。

(駐車場) 中学生 1 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 6 (プール)
年 年

※整列指示(安全担当: 拡声器)

7 避難経路

○今回、防災士の方が児童や職員の避難行動を見られ、ご指導されます。※つかんだ情報をもとに、どの避難経路を使い避難するか判断し行動する力が必要です。(児童も職員も)

アナウンスをしっかりと聞いて、行動できるように事前指導をしっかりと。

たとえば・・・①低学年の教室側がこわれています・・・→北側校舎から出る。

②中庭にガラスが落ちています・・・→どこからでもいいので、校舎から出る。

③体育館と校舎の間がこわれています。→そこから離れたところから出る。等、指導をしておく。

8 注意事項

いつ起きるかわからない事態に対処するための大事な訓練です。真剣に取り組むよう、指導の徹底をお願いします。

(児童に対して)

○毎日、上靴を必ず履かせておく。

○「おかしも」を指導しておく。

○どの場所においてもできるだけ「落ちてこない・倒れてこない」場所にしゃがみ、頭を守ることを徹底する。

○地震発生時に、自分がどこにいて、どこを通過して運動場まで避難するのかを考えさせておく。

●普段から、放送を注意深く聞く態度を育てる。

お	さない	・前の人を、押さない。(前の人転ぶと将棋倒しのようになりやすい。) ・もし前の人転んだら、大きな声で『とまれ』とさけぶ。
か	けない	・教室、廊下、階段などで走らないで、急ぎ足で歩く。 ・広いところでたら、駆け足で避難する。
し	やべらない	・避難時、避難後とも話をしない。(先生の指示や、『とまれ』の声が聞こえない。避難後は、人員確認の障害になるとともに指示が聞き取れなくなる。)
も	どらない	・一度避難した後、または避難の途中等、絶対にひきかえさない。

(職員に対して)

○今回は児童が散らばっている状態を想定しているため、この場所なら運動場へどのように逃げるかを指導しておく。

○災害・緊急時に備え、職員もサンダル等脱げやすいものではなく、靴タイプのものを履くよう心がける。

○指導計画の③で、担任外職員で最終確認をすることになっている方は、担当場所に損壊場所があった場合、校長に報告をする。(損壊内容を書いた黄色画用紙を見つけてください。)

○担任は出席簿を持ち出す。全学年分の緊急連絡簿は手嶋がまとめて持ち出す。

9 その他

○防災士は、当日土足で校舎内を巡回する。実際にはガラス等危険物が飛散しているため。